

佐賀大学産学官連携推進機構の自己点検評価報告書

1. 産学官連携推進機構の概要

(1) 目的

当機構は、本学の産学官連携を組織的に推進する中核的拠点として、教職員の研究内容、技術・技能・成果を積極的に公開し、地域・社会に役立つ活動を行うことを目的とする。

(2) 所掌業務

当機構で所掌する業務は以下である。

- ①産学官連携に関する窓口業務
- ②シーズ・ニーズの発掘・収集等
- ③共同研究・受託研究等の推進
- ④技術相談・経営相談等
- ⑤研究成果の実用化支援
- ⑥知的財産の創造・保護・管理及び権利化
- ⑦技術移転の実施・調整・契約業務等
- ⑧学生に対する実際的な応用教育・応用研究等

(3) 機構の組織

- ・ 機構長(研究・企画・産学連携・財務担当理事)
- ・ 管理委員会(機構長、各学部長、部門長、専任教員で構成)
- ・ 運営・実施委員会(機構長、専任教員、学部指名の委員、技術移転 SP)
- ・ 科学技術共同開発部門
 窓口業務、知財の創造、発明・創作の推進、技術相談・経営相談
- ・ 知的財産部門
 知財の権利化・保護・管理
- ・ 技術移転部門(佐賀大学 TLO)
 収益活動、特許・商標・意匠・ノウハウ等の移転

(4) スタッフ (38 名)

- ・ 機構長 担当理事兼任 西河貞捷
- ・ 副機構長 専任教員 准教授 佐藤三郎
- ・ 科学技術共同開発部門(4 名)
 部門長 農学部教授 柳田晃良、
 NEDO フェロー 下崎、事務補佐 永渕、鶴池
- ・ 知的財産部門(3 名)
 部門長 経済学部教授 岩本 諭、専任職員 原 事務補佐 高寄
- ・ 技術移転部門 (佐賀大学 TLO) (5 名)
 部門長 理工学部教授 吉野英弘、産学連携コーディネーター 原尚道
 技術移転スペシャリスト 西津、特許流通アドバイザー 武富
 技術移転アソシエイト 久納、
- ・ スタッフ教員 理工学部教授 渡他 7 名 (8 名)
- ・ 客員教授 弁理士 平井他 11 名 (12 名)
- ・ 客員研究員 横尾、内山 (2 名)
- ・ 事務局 研究協力課 秋山係長、師富主任 (2 名)

2. 科学技術共同開発部門の活動

(1) 窓口業務：

技術相談、経営相談 127 件・・・下記分野別分類参照

サテライト室(佐賀駅前)利用 221 件・・・下記サテライト室訪問件数表参照

科学技術相談・経営相談の分野別分類 (平成18年4月～平成19年3月)

相談申込者の地域 計177件

| 県内 | 九州内 | 九州外 | 外国 |
|-----|-----|-----|----|
| 106 | 24 | 46 | 1 |

相談申込者の所属

| 企業 | 官公庁 | 個人 | その他 |
|-----|-----|----|-----|
| 111 | 29 | 34 | 3 |

相談の分野 (複数カウント)

| | | | |
|-------|----|-------|----|
| 数物情報系 | 2 | 生物生産系 | 6 |
| 化学系 | 14 | 農業工学系 | 6 |
| 機械系 | 18 | 生物化学系 | 55 |
| 電気系 | 7 | 基礎科学系 | 0 |
| 建設系 | 10 | その他 | 63 |
| 福祉・介護 | 2 | 医薬・臨床 | 2 |

相談の種類 (複数カウント)

| | |
|------------|----|
| 技術的問題の解決 | 28 |
| 基礎知識の提供 | 33 |
| 佐大特有技術の利用 | 21 |
| 共同研究 | 11 |
| 委託研究申し入れ | 0 |
| 奨学寄付金の申し入れ | 0 |
| 分析・試験の依頼 | 5 |
| 論評・鑑定の依頼 | 5 |
| アイデア提供の依頼 | 1 |
| 技術指導・講演の依頼 | 15 |
| その他 | 62 |

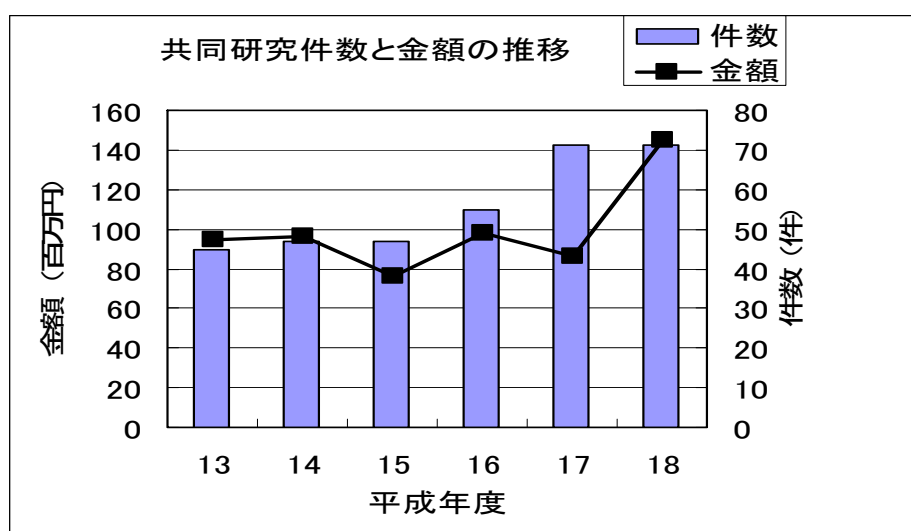
産学官連携サテライト室訪問件数表(18年4月～平成19年3月)

単位:件

| | 相談・面談 | 視察・見学 | 問合せ等 | 打合せ室貸出 | 合計 |
|-----|-------|-------|------|--------|----|
| 4月 | 2 | 4 | 10 | 0 | 16 |
| 5月 | 1 | 6 | 9 | 0 | 16 |
| 6月 | 1 | 2 | 6 | 0 | 9 |
| 7月 | 1 | 4 | 9 | 0 | 14 |
| 8月 | 2 | 3 | 9 | 3 | 17 |
| 9月 | 1 | 8 | 18 | 0 | 27 |
| 10月 | 1 | 8 | 19 | 1 | 29 |

| | | | | | |
|-----|----|----|-----|----|-----|
| 11月 | 0 | 4 | 10 | 0 | 14 |
| 12月 | 1 | 7 | 9 | 0 | 17 |
| 1月 | 1 | 7 | 9 | 1 | 18 |
| 2月 | 3 | 3 | 13 | 2 | 21 |
| 3月 | 1 | 12 | 7 | 3 | 23 |
| 合計 | 15 | 68 | 128 | 10 | 221 |

(2) 平成18年度共同研究受入件数 71件、金額145百万円



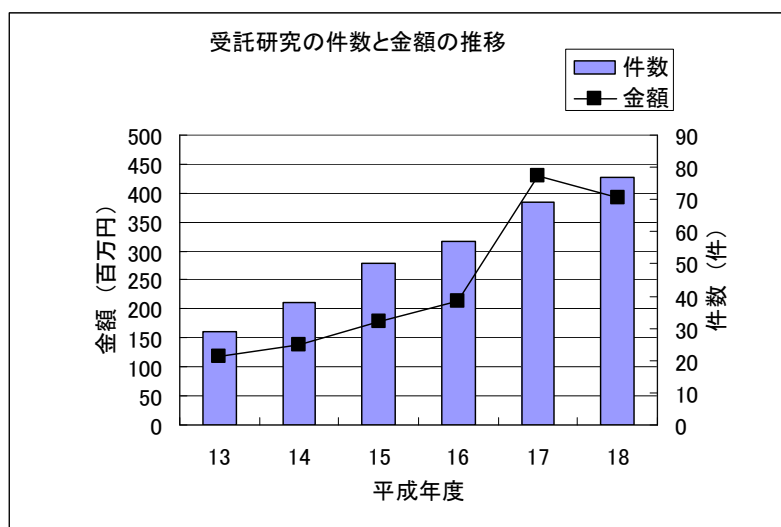
平成18年度 産学官連携推進機構が直接契約した共同研究

| 番号 | 担当者 | 研究題目 | 相手方 | 金額(千円) |
|----|-------|-----------------------------|---------------------|--------|
| 1 | 佐藤 三郎 | 小中高生による起業家 教育事業の実施に関する研究 | NPO 鳳雛塾 | 420 |
| 2 | 佐藤 三郎 | 新しいコミュニティー ビジネスの創生に関する研究 | NPO 佐賀大学 スーパーネット | 158 |

平成18年度 金融機関との協力協定(佐賀銀行)でスタートした受託研究・共同研究

| 番号 | 担当者 | 研究題目 | 相手方 | 金額(千円) |
|----|---------------|------------------------------|-------------------|--------|
| 1 | 理工学部 野口 英行 | 有機酸溶液「J's ACID」に 関する研究、開発 | ジェイアンドスミ ス株式会社 | 420 |
| 2 | 理工学部 猪原 哲 | アスベスト分別処理に 関する基礎的研究 | 株式会社 ハットリ工業 | 300 |

(3) 平成 18 年度受託件研究受入件数 77 件 (TLO 会員 24 件含まず) 金額 391 百万円



平成 18 年度シーズ発掘試験 (JST)採択状況(連携機構がコーディネート)

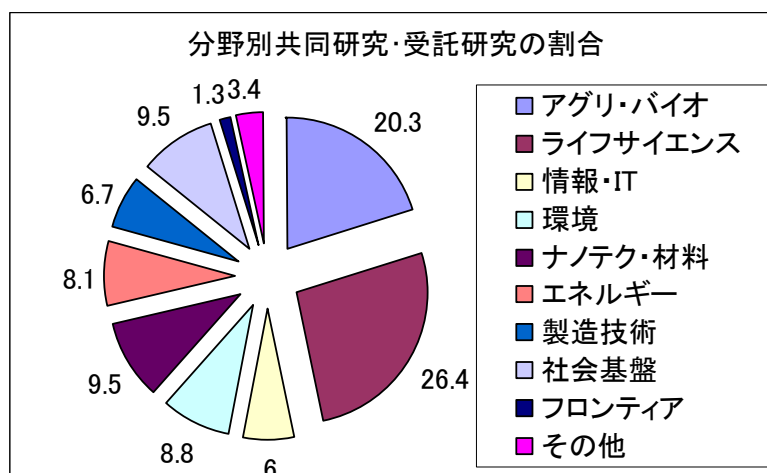
| 番号 | 担当者 | 研究題目 | 金額(千円) |
|----|---------------|----------------------------------|--------|
| 1 | 医学部 末岡 尚子 | 血漿 RNA を指標とした 肺がんの新規診断法の確立 | 2,000 |
| 2 | 理工学部 野口 英行 | 高性能マンガンオリビン系 リチウムイオン電池正極材料の開発 | 2,000 |

全国：5,621 課題応募、うち 1,008 課題採択、佐賀大学 18 課題応募、うち上記 2 課題採択
平成 17 年度：5 課題応募、うち 2 課題 (半田駿教授、川喜田英孝助手) 採択

平成 18 年度可能性試験 (FS) (JST)採択状況(連携機構がコーディネート)

| 番号 | 担当者 | 研究題目 | 金額(千円) |
|----|--------------|---|--------|
| 1 | 医学部 松尾清美 | 発達障害児の 2 次障害予防と発育促進の ための姿勢保持・姿勢変換一体型装置の 開発と実用化可能性評価 | 1,510 |
| 2 | 理工学部 大津康徳 | エネルギーの異なるプラズマイオン 交互注入による高密着性炭素系硬質膜の 合成技術 | 1,300 |
| 3 | 理工学部 石渡洋一 | 透明な希薄磁性半導体で報告された 室温強磁性の検証 | 1,300 |
| 4 | 理工学部 新井康平 | AQUA/AIRS サウンダデータを用いた 九州地域気温及び水蒸気鉛直分布の推定 | 1,300 |

平成 18 年度共同研究・受託研究の分野別割合



平成 18 年度 首都圏の分野別企業

- アグリ・バイオ： 電中研、農林水産技術会議、農業生物資源研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、畜産技術協会、畜産振興機構
- ライフサイエンス： エルクエスト、ソニー、シノテスト、コカ・コーラ、大塚製薬、大鵬薬品、トイイツ、持田製薬、第一製薬、味の素、キリン、ペルセウスプロテオミクス、スズケン、協和発酵、JST、先端医療振興機構、萬有製薬、エスアールエル、サノフィ・アベンティス、循環器病研究振興財団
- 情報・IT： 日本電波、三菱総研、NTT データ、JST、産総研、情報システム研究機構
- 環境： 東プレ、協和エクシオ、田中貴金属、富士電機シス、文科省、マリンフォーラム 21
- ナノテク・材料： 日産化学、三菱化学、キャノン、NEDO、JST
- エネルギー： 日立、東京ガス、日本重科学工業、NEDO
- 製造技術： 小松製作所、IHI、東芝キャリア、三菱重工、東京プレイズ、富士通研、出光興産、早稲田大学、リコー
- 社会基盤： 石油資源開発、三信化工、フロンティア：電装研
- その他

18 年度佐賀県下の連携先企業一覧

(全件数に対する佐賀県の割合 共同研究：20%、受託研究：40%、TLO 会員 24 社含め全体：40%)

- 共同研究先 (14 件)：ハットリ工業、アイティーインペル、佐賀 IDC、佐賀鉄工所、鳥栖環境開発総合、環境アネトス (2 件)、福岡建設、島田商会、丸秀醤油、佐賀県果実試験場、NPO 鳳雛塾、NPO 佐賀大学スーパーネット、JA 佐賀
- 受託研究先 (31 件)：健康福祉本部 (3 件)、農林水産商工本部 (2 件)、水産課、アジハリ事務局、茶業試験場、果実試験所、土木事務所 (2 件)、地域産業支援センター (10 件)、農業試験場 (以上佐賀県庁関係)、佐賀市 (2 件)、環境課、河川防災課 (以上佐賀市関連)、唐津市、小城市、鹿島市、川副町、諸富商工会
- ビジネスプランコンテスト協賛 (14 社)：あんくるふじや、イイダ靴下、牛津蒲鉾、NPO 鳳雛塾、九州積水工業、古賀電機製作所、サガプリンティング、シグマ、佐賀県産品活用推進研究会、JA 佐賀経済連、竹下製菓、ドンキー薬局、村岡屋、ヨコオ牧場

(4) シンポジウムの主催・展示会等への出席

| 期日 | 展示会など (会場) | 主催者 展示物 |
|------------------------|---|--|
| 6月 10日 11日 | 第5回産学連携 推進会議 (京都市) | 主催:内閣府、総務省、文科省、経産省ほか 地中探査装置 ゆるまないネジ 低平地研究センターの紹介 シンクロトン光応用研究センターの紹介 |
| 7月 27日 | 科学技術 シンポジウム & ベンチャー交流 ネットワーク 第2回例会 (佐賀大学) | 合同主催:佐賀大学産学官連携推進機構 & 佐賀県地域産業支援センター MOT教育(農業版)ミニシンポジウム 基調講演:農業資源と次世代エネルギー センター長 内田進 ショートプレゼンテーション:(株)石動農産、(有)みのり農場、 (有)オーク、(有)ヨコオ牧場、(株)クリエイ グループ別討論:上記5法人+内田センター長 |
| 10月 21日 | 佐賀大学唐津市 相互協力協定 記念講演会 (唐津市) | 主催:唐津市 基調講演:佐賀大学産学官連携推進機構の設立 部門長 柳田晃良 |
| 10月 31日 | 佐賀大学 産学官連携推進 機構 設立記念式典 (佐賀大学本庄キ ャンパス) | 主催:佐賀大学産学官連携推進機構 佐賀大学シーズ100展として特許100件と 教員の研究45件の紹介 |
| 11月 20日 ～ 23日 | バイオマス ニッポン in九州2006 (北九州市) | 主催:九州地域バイオマス関係機関連絡会議 微生物による資源循環技術(1)、(2) 加圧熱水プロセスを用いた植物系バイオマスの高度利用 抗カビ物質の探索 環境調和型セラミックスの開発 環境無負荷を実現する高周波酸素プラズマ滅菌装置 |
| 1月 19日 | 第2回佐賀学生 ビジネスプラン コンテスト (佐賀市アバンセ 大ホール) | 主催:佐賀大学産学官連携推進機構 佐賀大学の学生のプラン2件発表 佐賀県下の高校生(牛津、佐工、佐農、唐津南)のプラン8件発表 佐賀大学の学生のプラン9件ポスター報告 |
| 2月 6日 | 共銀セミナー (ホテルニュー オータニ佐賀) | 主催:佐賀共栄銀行(金融機関との連携協力により参加) 産学官連携推進機構の紹介 -ワンストップサービスの実現を目指して 柳田晃良 シンクロトン光の原理と自由電子レーザー 佐藤三郎 人優先の道造り-地区交通環境改善への取り組み 清田勝 液肥製造方法及び液肥製造システム 田中宗浩 |
| 3月 22日 | 産学官連携 ネットワーク フォーラム (唐津市) | 主催:佐賀県地域産業支援センター 佐賀大学産学官連携の成果報告 佐藤三郎 科学技術相談 柳田晃良、佐藤三郎 |

| | | | | | | |
|---------|---|---|---|---|---|-----------------------|
| 実験室 (1) | / | / | / | / | / | 3 |
| 実験室 (2) | | | | | | 3 |
| 実験室 (3) | | | | | | 3 |
| 研究室 (2) | | | | | | 理工学部 機能物質 化学科 宮島 徹 |

※上記管理施設は平成19年1月より利用開始となった。

主な研究設備

平成8年度の一般設備費で購入した「産業用ロボットアーム解析制御装置」をはじめ、下記の特別設備等が設置され、共同研究等に利用されている。

| 設備名 規格 | 数量 | 設置場所 (管理者) | 特徴 | 設置 |
|---|----|--|--|---------------|
| 産業用ロボットアーム解析 制御装置 安川商事 PERFORMER -MK3-S | 1式 | 理工学部 8号館8F 812室 (理工電気電子 中村教授) | この装置は、制御器までも含めて自由に設計を行うことができ、高速高精度制御を実現する手法の開発と検証が可能である。 | 平成 8 年度 |
| 電子スピン共鳴装置 日本電子 JES-TE300 | 1式 | 理工学部 9号館1F 104室 (理工機能物質 化学 時井教授) | ラジカル遷移金属化合物等の常磁性物質の電子状態を測定・解析する装置で、個体・液体・溶液試料のスペクトルを78K-350Kの温度範囲で高感度に測定することができる。 | 平成 7 年度 |
| 高機能高周波ベクトル解析 システム YHP HP-8510C | 1式 | 連携機構3F 情報処理室 (理工電気電子 相川教授) | 電気特性を超広帯域にわたって測定・解析・評価できるシステムで電気信号のベクトル測定(複素インピーダンス、伝送・反射特性、Sパラメータ等)回路網の解析、伝送ひずみ等)ができる。 | 平成 5 年度 |
| 近赤外自動分析装置 ブラン・ルーベ インフライザー500 システム | 1式 | 連携機構2F 実験室(4) (農学生物生産 田中准教授) | 非破壊分析を目的として開発された機器で、成分のもつ近赤外の吸収を利用し、食品・農産物等の水分・蛋白質・脂肪・糖質・アミノ酸等を非破壊で迅速・簡易に精度高く測定することができる。 | 平成 元 年度 |
| 三次元形状・粗さ測定装置 小坂研究所 SEF-30D TYPE4 | 1式 | 理工学部 大学院棟分室 (理工機械シス テム 中島教授) | 高精度仕上げ面の品質や性能の評価をある広がりを持った面で測定・解析するための装置で、輪郭形状及び表面の微細形状(粗さ、うねり、段差)を二次元のみならず三次元的に測定・表示する。 | 平成 元 年度 |
| 多目的型万能三軸試験機 マルイ MIS-235-1- 7-55 (平成18年6月廃却) | 1台 | 連携機構1F 実験室(1) (理工都市工学 岩尾教授) | 広範な条件下において種々の材料の物性を試験できる装置で、供試体について、常圧下高圧下での圧縮特性並びに疲労・振動特性の試験セラミックス材料の均質・高密度形成等が可能である。 | 平成 元 年度 |

この他に、平成12年度基本設備として、実験室（4）に以下の設備を設置しました。

- ・「マイクロ冷却遠心機」（久保田商事製 Model 3700 ） 1台
- ・「紫外可視分光光度計」（アマシャムファルマシア製 Ultrospec 3000 ） 1台

3. 知的財産部門の活動状況

（1）概要

平成18年8月に産学官連携推進機構が発足したことに伴い、平成16年4月に設置された「知的財産管理室」は同機構「知的財産部門」に組織統合され、旧・室の業務は、同部門に引き継がれた。

知的財産部門においては、それまでの旧・室の業務および関係法規の見直しを行い、効率化・迅速化・コスト削減の観点から業務の充実を図るための取組を行った。

第一は、知的財産の出願に係る審査体制を見直しを行い、組織統合のメリットを活かし、副機構長、TLO部門長を知的財産部門会議の構成員とし、出願等の申請に係る審査体制を強化した。

第二は、企業と大学の共同出願に関するルール、外国出願に関するルール、特許年金に関するルールを制定し、権利化業務のコスト削減に向けた法規整備を行った（H19年4月1日より実施）。

（2）活動実績

- ①発明の届出数：平成18年度の発明の届出件数は43件であった。
（法人帰属38件、個人帰属5件）
- ②特許件等の出願登録：特許出願件数は48件（国内46件、外国2件）、商標出願件数は5件、実用新案出願件数は1件であった。
特許権の登録件数は60件（国内26件、外国34件）、商標権登録件数は5件、実用新案権登録件数は1件であった。また、佐賀大学知的財産登録件数は5件であった。
- ③知的財産シリーズセミナー開催

| | 講演題目 | 講師 | 開催場所 | 開催期間 |
|---|----------------------------|--|--------------|---------------|
| 1 | 医学・医療分野における特許戦略 | 三枝国際特許事務所 弁理士 中野睦子様 | 医学部 臨床小講堂 | 平成19年 2月9日 |
| 2 | 事業化を考慮した研究開発と知的財産戦略 | 元九州松下電器株式会社 開発研究所長 黒石忠様 | 学長特別 補佐室 | 同 2月26日 |
| 3 | 企業、大学、公的研究機関での特許活用成功、失敗事例 | 株式会社に西部技研 知的財産シニア エキスパート 川上由基人様 | 学長特別 補佐室 | 同 2月28日 |
| 4 | 事業化を考慮した明細書の作成（研究成果と明細書作成） | インフィールド 特許商標事務所 弁理士 内野洋様 | 学長特別 補佐室 | 同 3月1日 |

4. 技術移転部門（佐賀大学 TLO）の活動状況

（1）概要

技術移転部門は、平成17年4月1日に佐賀大学技術移転機構（佐賀大学TLO）として設立され、平成17年7月に国立大学法人の中では初めての内部型TLOとして認可された。その後、平成18年8月、佐賀大学の機構改革によって、科学技術共同開発センター及び知的財産管理室と統合、産学官連携推進機構の技術移転部門として再出発し、今日に至って

いる。

技術移転部門の課題は、「特許の査定を行う目利き体制」、「特許の紹介斡旋体制」の整備が遅れていることにある。平成18年8月から、「保有特許利活用推進プロジェクト」を立ち上げ、目利き体制、斡旋体制の構築を目指している。

(2) 活動実績

①技術移転活動

平成18年度は、6件の技術移転契約を締結した。シーズ説明会や出展フェアの来場者や個別相談者、ホームページで公開している特許一覧に対する外部からの問い合わせに対して積極的にフォローをかけ、引き合いがあったものに対して個別に交渉を繰り返し、6件の技術移転・実施契約に結びつけた。このうち1件は、未公開特許を含むライセンス可能な特許情報・技術シーズの無料データベース（J-STORE）に掲載したところ、引き合いがあり、さらに新技術説明会において個別相談があった。その後、大学にて交渉を数回繰り返し、実施契約に結びつけた。もう1件は、佐賀大学保有特許がある企業で実施契約なしに無断で使用されていることが判明したため、TLO構成員が企業を訪問して交渉を繰り返し、一時金による通常実施契約に結びつけた。特許以外のノウハウ、プログラムなどの固有技術についても、一旦、大学の知的財産として登録し、技術移転として実施契約に結びつけた。その他、特許権の譲渡が1件、商標権使用許諾が2件あった。

実施契約によって獲得した収入は、規定によりその一部が発明者に報奨金として支払われた（支払い内容はホームページに掲載）。

平成18年度実施契約の状況

| 実施契約の形態 | 契約件数 | ライセンス収入（千円） |
|---------|------|----------------------|
| 特許実施 | 2 | 7,349 |
| 特許譲渡 | 1 | (過去に契約分のロイヤリティ収入を含む) |
| 商標 | 2 | 453 |
| 意匠 | - | 20 |
| 知的財産 | 1 | 1,000 |
| 計 | 6 | 8,822 |

②情報提供活動

- ・ 技術移転部門のホームページを通し、佐賀大学の保有特許及び出願特許の情報を広く公開する特許の紹介・斡旋活動体制を整えた。
- ・ 佐賀大学TLOが情報提供契約を締結している地域企業（TLO会員企業）については、出願から3ヶ月間ホームページ上での未公開特許の優先開示と訪問による斡旋活動を実施した。また、教職員ごとに研究内容とシーズを検索可能なデータベースとしてホームページ上に公開した。
- ・ 可能性が高いと思われる特許について、シーズ説明会の開催や特許フェア等への出展を行い、重点的な紹介・斡旋活動を展開した。
- ・ 保有している特許および出願中の特許について発明者アンケートを実施し、特許に対する発明者本人のその後の評価や実施可能性の高い企業について意見を求め、特許斡旋活動の優先順位を決めるのに利用した。
- ・ アンケート回答を基に研究室訪問（月5件程度）を行い。技術シーズの発掘、出願特許の実施可能性、売込み先などの詳細な情報収集を行い、ホームページにTLOニュースとして紹介した。

平成 18 年度シーズ説明会及び特許フェア等への出展

| | 名 称 | 開催場所 | 開催期間 | 来場者数・個別相談件数 |
|---|--|---------------------------|------------------------------------|-------------|
| 1 | JST/CIC 東京 「第 2 回新技術説明会」 | イノベーションセンター (東京、田町) | 平成 18 年 3 月 17 日 | 10 |
| 2 | 第 5 回産学官連携推進会議 | 京都国際会議場 | 平成 18 年 6 月 10 日 ～6 月 11 日 | |
| 3 | JST/CIC 東京 「第 3 回新技術説明会」 | イノベーションセンター (東京、田町) | 平成 18 年 7 月 21 日 | 8 |
| 4 | パテントソリューション 2006 (特許流通フェア IN 東京) | 東京ビッグサイト (東京、有明) | 平成 18 年 10 月 11 日 ～10 月 13 日 | 100 |
| 5 | 九州産学官連携 ビジネスショー | 西日本総合展示場 (北九州市) | 平成 18 年 10 月 25 日 ～10 月 27 日 | 30 |
| 6 | 産学官連携推進機構記念式典 (佐大シーズ 100 展示) | 佐賀大学 (6 号館 DC 棟 2F) | 平成 18 年 10 月 31 日 | 100 |
| 7 | 産学官連携ネットワーク フォーラム (出展参加) | 唐津 ロイヤルホテル (佐賀、唐津市) | 平成 18 年 11 月 20 日 | 15 |

③ T L O 会員制度

- ・ 平成 18 年は機械・電気系の企業を中心に延べ 241 件の企業訪問を実施した。内訳は、会員企業訪問が 149 件、非会員企業訪問が 92 件である。
- ・ 平成 18 年 3 月現在の佐賀大学 T L O の会員企業は 23 社であり、内訳は県内が 21 社、県外が 2 社となっている。
- ・ 会員企業の指定する教員を会員企業 8 社に対して、延べ 31 時間、14 回派遣し、技術相談に応じた。

5. 専任教員・客員教授及び関係教員の教育活動 (産学連携関連)

下記に開講担当科目等を示す。・・・シラバス：資料 4.1～4.3 参照

| 区分 | 科目 | 内容 | 対象 | 受講学生数 | 担当者 |
|------------|---|--------------------------------------|--------------------|-------------------|------------------------|
| 主題 科目 | チャレンジ・ベン チャービジネス I 同Ⅲ(以上前期) 同Ⅱ(後期) | 企業見学 ビジネスプラン コンテスト インターンシップ | 全学・全学年 同上 同上 | 1 2 2 2 3 6 | 佐藤 (1) 佐藤 佐藤 (7) |
| 経済学 研究科 | 経済法研究 (H18 後期) | 知的財産法制度 知的財産 競争政策 | 経済学部 大学院生 | | 岩本 |

担当者 () 内：客員教授・部門長に一部依頼

上記以外に専任教員は、学部授業として技術者倫理(受講者数 55 名)、電気電子工学工場実習(2 名)、電気電子工学卒業研究指導(1 名)、大学院授業としてエネルギー変換工学特論(工学研究科共通科目、100 名)、フォトン工学特論(電気電子工学専攻、10 名)、レーザー診断工学特論(生体機能専攻、9 名)、Advanced Laser engineering (Environmental Sic.、2 名)を受け持った。

第 2 回ビジネスプランコンテスト (別紙参照)

第 2 回佐賀学生ビジネスプランコンテスト表彰者一覧

| 表彰 | 協賛企業特別賞 | 発表のタイトル | 所属 | 発表者氏名 |
|----------------|-------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|---|
| 優 秀 賞 金賞 | (有)ヨコオ牧場 代表取締役社長 横尾 文三 | レンコンの消費拡大と 商品開発 | 佐賀県立 佐賀農業 高等学校 食品産業科 | 川内 怜 岸川 智 佐々木賢太郎 松下 聖司 野田 宏美 平井 祐子 |
| 優 秀 賞 金賞 | (株)村岡屋 代表取締役社長 村岡 央麻 | えんやークッキーで 町おこし | 佐賀県立 唐津南 高等学校 食品流通科 | 前田菜美子 増本 龍一 坂元 繁一 伊藤千佳沙 |
| 優 秀 賞 銀賞 | 佐賀県経済農業 協同組合連合会 代表理事 末次 豊春 | さがンドレッシング 「さがどれ」 | 佐賀県立 牛津 高等学校 食品調理科 | 今泉 孝典 井上 耕大 江崎功太郎 卯野木 恵 |
| 優 秀 賞 銅賞 | 県産品 活用推進研究会 会長 三木吾朗 | ちょこんと柚子こしょう | 佐賀県立 牛津 高等学校 食品調理科 | 津山美菜子 |
| 優 秀 賞 | 竹下製菓(株) 代表取締役社長 竹下 敏昭 | 濃厚ミルクチーズ | 佐賀県立 牛津 高等学校 食品調理科 | 犬塚 智子 内橋 法子 |
| 優 秀 賞 | | Tシャツを利用した 手軽で簡単・動く広告塔 | 佐賀県立佐賀工業 高等学校建築科 | 徳山 鐘太 綾部 桂祐 吉田 龍也 |
| 優 秀 賞 | | 顔の見える フラワーアレンジメント | 佐賀県立 唐津南 高等学校 生産技術科 | 古川 理恵 渡邊 麻衣 宮崎友香子 濱口 裕美 |
| 優 秀 賞 | (株)佐賀共栄 銀行常務取締役 坂元 信彦 | HAIZAI 雑貨屋さん | 佐賀大学 経済学部 | 松本 修 岩野 武男 |
| 優 秀 賞 | | 借☆漁+借☆農 (しゃくりょう・しゃくの う) | 佐賀県立 佐賀工業 高等学校 建築科 | 石丸裕佳子 高橋 久孝 上妻 隆弘 川副 良介 |
| 優 秀 賞 | | 学生向けフリーペーパー 「SAGAZINE！」 | 佐賀大学 経済学部 | 池田 達則 本山 翔一 |

6. 専任教員・客員教授及び関係教員の研究活動

専任教員は、学生へのベンチャー教育に関し産学連携学会において 3 件の発表、及びレーザー学会で 1 件の発表を行った。

- ①佐藤、下崎、内田；学生ベンチャー教育ーチャレンジ・ベンチャービジネスー、産学連携学会第 4 回大会講演予稿集、0616C1000-02(2006)pp.169-170.
- ②下崎、佐藤、内田；第 1 回学生ビジネスプランコンテスト開催事例、産学連携学会第 4 回大会講演予稿集、0616P12(2006)pp.224-225.
- ③石川、深井、佐藤；地域密着型大学発ベンチャーの取り組みー学生コーディネーターの重要性とその役割についてー、産学連携学会第 4 回大会講演予稿集、0616C1000-01(2006)pp.167-168.
- ④佐藤三郎、徳永竜平、田代真也、下崎光明、林信哉、猪原哲、山部長兵衛：赤外レーザーを使った人歯牙の脱水・脱有機物処理ープラズマ処理ー、レーザー学会第 355 回研究会報告資料、RTM-06-44(2006)pp.21-26.
- ⑤ 岩本部門長；工業所有権法学会に出席し、知的財産法に関する学術知見の修得に努めた。

7. その他の国際交流・社会貢献、地域貢献活動

(1) 国際貢献

9 月 4 日～10 日理工学部電気電工学専攻山部長兵衛教授主催の国際会議 HAKONE X を事務局員としてサポート。

(2) 社会貢献・地域貢献

| | |
|---------------|---|
| 担当者 | 審議会・委員会 |
| 機構長 西河貞捷 | 佐賀県地域産業支援センター評議員 (H19.9.1～H22.8.31) 九州シンクロトロン光研究センター諮問委員 (H19.10.1～H21.9.30) 産業技術研究所九州センターアドバイザーボード 永原学園評議委員 |
| 副機構長 佐藤三郎 | 日本ユニセフ佐賀支部評議員 (2004 年 2 月～) NPO 佐賀大学スーパーネット理事長 (2003 年 6 月～) 鹿島竹とうろう祭り実行委員(2004 年 5 月～) 三瀬「ざっといかんばい」林道マラソン実行委員長 (2003 年 4 月～) 産学連携学会理事 (2003 年 4 月～) 電気学会論文査読委員 (1996 年 4 月～) レーザー学会九州支部委員 (1997 年 4 月～) 佐賀ハイテク研究会幹事 唐津市雇用創造促進協議委員会アドバイザー (2007 年 1 月～) 牛津高校目指せスペシャリスト研究開発運営委員 (2006 年 2 月～) |
| 客員教授 蒲原啓二 | 際立つ佐賀ベンチャー創出支援審査員 |
| 客員教授 櫻井堅二 | 際立つ佐賀ベンチャー創出支援審査員 |
| 客員研究員 原 尚道 | 佐賀市インキュベートルーム入居者選考委員 |

設立記念式典式次第

佐賀大学産学官連携推進機構設立記念式典

1. 日 時：平成18年10月31日（火） 15：00～
2. 会 場：佐賀大学理工学部6号館（DC棟）大講義室（1階）
3. 式次第：15：00～15：10 学長挨拶 佐賀大学学長 長谷川 照
15：10～15：40 基調講演 佐賀県商工会議所連合会会長 指山 弘養
演題「産学官連携推進機構に期待するもの」
15：40～15：50 休 憩
15：50～16：20 事例紹介等 産学官連携推進機構 機構長 西河貞捷
16：20～16：30 地域貢献への取り組み
社会貢献・医療・広報担当理事 向井 常博
移 動
16：40～17：00 テープカット（産学官連携推進機構玄関前）
指山弘養 佐賀県商工会議所連合会会長
小井出博之九州経済産業局産学官連携推進室長
江口洋一佐賀県農林水産商工本部副本部長
秀島 敏行佐賀市長（予定）
長谷川 照佐賀大学長
4. その他 併設パネル展示 ～ 佐賀大学100シーズ展示 ～
会 場：産学官連携推進機構、6号館（DC棟）2F多目的セミナー室
展示時間：12：00～20：00 （技術相談等にも応じます。）
5. 懇親会（会費：千円）
かささぎホール2階 17：30～（1時間程度）
開挨拶 西河機構長、閉挨拶 部門長